

公益財団法人 ロッテ財団 2022 年度事業計画

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日まで)

【事業の概要】

I. 奨学事業

1. 奨学援助

計 140,000 千円

2022 年度の在籍予定者数は 65 名とする。奨学生の内訳は以下の通り。

(1)一般奨学生及び P.B.S (Post Bachelors Scholarship) 奨学生

日本の大学で学ぶ主としてアジアからの私費留学生を対象とする。学部生及び大学院生等のうち、志操堅固・学力優秀であり、かつ学業を続けるために経済的援助を必要とする奨学生について、奨学事業選考委員会にて選考のうえ、奨学生を決定する。

継続奨学生と合わせ、年間の奨学生数 48 名とする。

なお、奨学金については、月額 18 万円を原則 2 年間支給する。

(2)渡日前採用奨学生

日本の大学等に入学する目的を持って来日する留学生を対象とする。年間の奨学生数は 17 名とする。

なお、渡日前採用奨学生については、来日後、渡航支度金・入学金等の援助金として 108 万円を支給するほか、大学入学までの滞在費総額 108 万円及び大学入学から大学の正規就学期間が終了するまで学部奨学援助月額 18 万円を支給する。

【奨学生採用計画】

対象奨学生	2021 年度 実績	2022 年度計画			
		新規	継続	合計	前年差
① 一般奨学生	47	22	26	48	+1
② P.B.S 奨学生 (Post Bachelors Scholarship)	0	0	0	0	0
③ 渡日前採用奨学生	18	3	14	17	-1
合 計	65	25	40	65	0

※渡日前採用奨学生については、中国・韓国から 3 名程度を採用予定。

なお、2022 年度採用予定の一般奨学生について 2021 年度中に面接審査を実施済み。渡日前採用奨学生については 2022 年度中に実施する予定。

2. 交流活動

計 10,000 千円

採用された奨学生を対象に、6 月に対面形式で奨学金贈呈式を実施し奨学生を激励する。また例年年 3 回程度(内 1 回は研修旅行)行っている交流会および研究発表会、日本文化体験等については、コロナ感染の状況にもよるが、基本的には対面形式とオンラインでの開催を併用し、効率的に行う。これにより奨学生間並びに奨学生と財団間の親睦や交流を図り、奨学生育成の一助とする。

3. 事業運営

計 17,130 千円

生活面や勉学状況等を財団が把握するため、関東近郊は財団事務所等で年数回程度の個人面談を実施し、指導・助言等を行い奨学生との意思の疎通を図る。

また、奨学生の募集活動及び面接・選考を行うための奨学事業選考委員会を開催する。その他、奨学生間とその家族及び奨学生と財団間との交流に資するため、毎年「交流誌」の発行を行う。

選考費 1,730 千円、給与手当 10,900 千円、他 4,500 千円を計上。

合計 167,130 千円(A)

Ⅱ.研究助成事業

1. 研究助成金

計 190,000 千円

「研究者育成助成<ロッテ重光学術賞>」については、2018 年度、2019 年度、2020 年度採択者 3 名は、公益事業積立金の取崩により 37,000 千円及び寄附金より 8,000 千円を助成する。2022 年度の採択者 1 名は寄附金より、15,000 千円を助成する。「奨励研究助成」については、2022 年度分(A) 35 名 105,000 千円は寄附金により助成し、(B) 20 名については寄附金より 20,000 千円を助成する。

また、研究論文作成助成については、寄附より 5,000 千円を助成する。

(単位千円)

助成名称	採択年度	寄附	公益事業積立金取崩
研究者育成助成 〈ロッテ重光学術賞〉	2018 年度採択者 1 名分		15,000
	2019 年度採択者 1 名分		15,000
	2020 年度採択者 1 名分	8,000	7,000
			0
	2022 年度採択者予定 1 名分	15,000	0
	小計 4 名分	① 23,000	② 37,000
奨励研究助成	2022 年度採択予定(A) 35 名分	105,000	
	2022 年度採択予定(B) 20 名分	20,000	0
	小計	③ 125,000	0
研究論文作成助成	補助予定者 15 名分	④ 5,000	0

合計助成予定金額 ①+②+③+④ 190,000 千円

〈研究助成事業の特徴〉

研究者育成助成制度は「食と健康」の分野において、優れた若手研究者がわが国トップクラスの研究者として成長するに相応しい支援を行い、採択者には〈ロッテ重光学術賞〉として年間 15,000 千円を最大 5 年間支給する。本制度は日本国内では数少ない研究者育成制度である。育成支援教員のもとに、安定した研究の場を確保し、そのために必要な資金を長期に助成する点が大きな特徴である。

一方、奨励研究助成制度は、自然科学及び人文社会科学等の広域科学分野からの先端的研究に専念する優れた若手研究者を対象とした助成制度である。

奨励研究助成(A)においては最大 3,000 千円、研究期間を最長 3 年間まで認め、奨励研

究助成(B)においては最大 1,000 千円、研究期間 1 年として、支給することに特徴がある。
また、2020 年度よりあらたに研究論文作成・掲載・発表経費助成を開始している。
これは、本研究助成制度に既に採択されている研究者を対象に、論文作成・掲載・発表時に掛かる経費に対して最大 50 万円の助成を行うものである。

2. 研究助成活動

計 4,000 千円

研究助成活動に関しては、贈呈式や研究発表会等の開催における意見交換や情報収集などを通じて、研究助成事業の質的向上を図るための費用等を計上する。

3. 研究助成事業運営

計 33,870 千円

研究助成事業選考委員会開催時の「選考費」として 2,820 千円。

公募費として応募告知等で 20,000 千円、給与手当 5,450 千円、他 5,600 千円を計上。

合計 227,870 千円(B)

以 上

【ご参考】2022年度年間経費

① 事業費合計(A+B)	395,000 千円
② 管理費合計	67,000 千円
経常費用合計	462,000 千円